

# 金利指標改革を踏まえた 全銀協TIBORの現状および今後の展望 (2023年6月)



1

**全銀協TIBORは、**  
**短期金融市場の各種**  
**データにもとづき、**  
**客観的に算出されて**  
**います。**

全銀協TIBOR（日本円TIBORとユーロ円TIBORの総称）は、2017年に実施した全銀協TIBOR改革により、各種データにもとづく一層客観的な（恣意性を排除した）算出プロセスとして「ウォーターフォール構造」を導入しました。

説明資料 P.6,7

2

**日本円TIBORは、**  
**公表を継続する指標**  
**として、透明性・頑**  
**健性・信頼性の維持、**  
**向上を目指します。**

日本円TIBORは、国際的にも認知され、市場において引き続き広く利用されるよう、IOSCOの「金融指標に関する原則」の遵守は勿論、グローバルな金利指標改革の動向を注視し、同指標の透明性・頑健性・信頼性の維持、一層の向上を目指します。

説明資料 P.12へ

3

**ユーロ円TIBORは、**  
**その課題等を踏まえ、**  
**秩序ある公表停止に**  
**向けた検討が進めら**  
**れています。**

ユーロ円TIBORについては、IOSCOの「金融指標に関する原則」における残された一部課題の解消に向けて、2024年12月末での恒久的な公表停止について検討が進められており、2023年度には同検討が本格化する予定です。

説明資料 P.10,12へ

## Q1

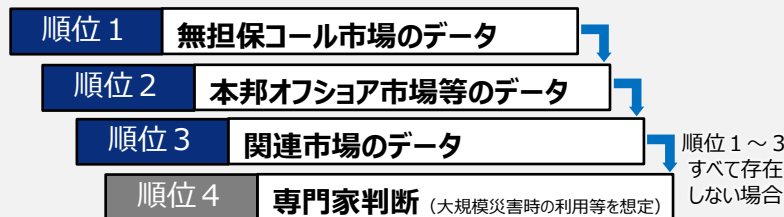
全銀協TIBORの呈示レートの算出・決定プロセスに導入された「ウォーターフォール構造」について教えてください。



## A1

- ✓ 全銀協TIBORは、その算出に当たって当運営機関やリファレンス・バンクによる恣意的な操作を排除した客観性の高い仕組みとなっています。
- ✓ リファレンス・バンクの呈示レートの算出・決定プロセスを統一・明確化することを一つのコンセプトとして実施した全銀協TIBOR改革（2017年7月）において、一段と客観性を高めるべく、算出・決定プロセスに導入されたのが、以下の「ウォーターフォール構造」です。

<「ウォーターフォール構造」の概要（日本円TIBORの場合）>



以上の、順位1～3を順にみてデータが存在するところで呈示レートが算出・決定されます。

## Q2

ユーロ円TIBORに係る「一部課題」や、公表停止の検討がされている背景について教えてください。



## A2

- ✓ 当運営機関は、指標の運営機関が遵守すべきとされるIOSCOの「金融指標に関する原則」を遵守していると評価しています。
- ✓ ただし、全銀協TIBORのさらなる透明性・頑健性・信頼性の向上に向けた取組み（全銀協TIBOR改革Next）の一環として、ユーロ円TIBORに係る一部の課題解消に向けた検討を進めています。

<認識している課題とその対応状況>

**課題** 本邦オフショア市場の長期的な縮小傾向（IOSCO原則7：「データの十分性」に対応）

「ユーロ円TIBOR」の呈示レートが、評価対象市場（本邦オフショア市場）のデータで決定される割合が低いことを踏まえ、同指標については、**2024年12月末の恒久的な公表停止に向けた検討を進めています。**